

## 【関東信越税理士会新潟支部長賞】

### 「税金が僕の未来を救った」

新潟県立

新潟南高等学校

二年 清水 千洋

私は小学一年生からスポーツクラブに加入し、充実した施設で日々楽しんで練習していました。身体が出来上がらない時期においての過度のトレーニングが原因で小学二年生の冬、背中を痛め腰椎を手術しました。手術は成功しましたが、剣道の防具のようなコルセットで腰を固定した生活となりました。さらに数年間激しい運動の禁止、体育の授業にも参加しないように言われました。

振り返ってみると、小学校中学年から高学年にかけての思い切り遊びたい時期に体を動かさなかったこと、運動会の大玉送りなどでみんなが活躍している姿を応援席からひとりぼっちで見ることが大変に辛かったです。その頃、背中の痛みが再発したら将来はどうなってしまうのだろうという不安な気持ちに幾度となく襲われました。

また、同じ時期にある病気を発症して病院に運び込まれました。重い病気ではなかったのですが、その病気を治療するため毎日朝晩、薬の服用を余儀なくされました。飲み忘れが親に見つかると、症状が悪化すると注意され、今でも薬を見ると苦い思い出が蘇ります。

現在の私は一年に一度、MRI撮影を行い腰椎の経過観察してもらっています。完全に元通りになることはないよう

ですが、体の成長とともに快方に向かっています。運動の制限は段階的に緩和され、中学一年生の冬に完全になくなりました。病気も順調に治癒し、今では薬も必要なくなりました。回復した実感は中学校で所属した運動部の団体戦で県大会出場を果たしたことも感じるようになりました。

課題作文を書くにあたり、身近な税金について少し調べてみました。そうすると私が受けた手術や入院費用、コルセット、薬代金は医療費助成を受けていると知り、その費用の一部は税金で支払われていると知りました。私たちが住んでいる町では平成三十一年と令和三年にこども医療費助成の通院対象年齢が改正され、通院の助成対象が小学校六年生から高校三年生に拡大され、さらに利用しやすくなりました。

ひとりぼっちで応援席にいた私はもういません。何事にも積極的に行動できるようになりました。私のようにケガや病気で気持ちまでも落ち込んでいた日本中の子供たちが手術や検査、薬の服用によって明るい未来を期待できることは素晴らしいことと思います。

私の未来は税金によって救われたと思います。これまで受けた恩恵を振り返り、税金制度に対しての感謝を忘れず、いつか税金を納める立場になったときは少しでも社会に貢献できるように恩返しできたらと考えています。